

## アピオス・みの〜れ・コスモス「3館の個性」

- ・小川文化センターアピオス 「交流と祭り」
- ・四季文化館みの〜れ 「未来へつなぐ風・あなたとつくる森」
- ・生涯学習センターコスモス 「悠久の風土を活かす」

## 2. 戦略／方策／活動計画

戦略（A～D）ごとに方策を2つずつ、さらに方策ごとに3館の活動計画を定めます。

### 戦略A 集める -誘引力- 【戦略別広報】知ってもらおう広報

方策A-①	活動計画
誰もが参加しやすい環境をつくる 広く全体的に集める	アピオス リモートとリアルが共存する会議を標準にする
	みの〜れ すべての人に開かれた憩いの場の創出
	コスモス 公民館・図書館・史料館とも連携した気軽に立ち寄れる環境の創出
方策A-②	活動計画
明確なメッセージを伝える 特定のターゲットを集める	アピオス 最新のデジタルツール（SNS・動画等）を先取りする／専門的な広報戦略を学ぶ
	みの〜れ 世代にマッチした多様な手法を用いた情報提供
	コスモス 地域の特性を生かした情報発信

### 戦略B つなげる -ネットワーク力- 【戦略別広報】呼びかける広報

方策B-①	活動計画
過去・現在・未来の交流	アピオス 企画力・広報力を向上させるため、学びと実践の場をつくる／既存の事業に新たな人材が参加・参画する仕組みをつくる
	みの〜れ 体験と対話を通して多世代交流をする企画事業の展開
	コスモス 多世代交流や日常的な学校連携を意識した事業の展開
方策B-②	活動計画
同じ時間での交流	アピオス 全国の各種組織との交流の機会をつくる
	みの〜れ 地域の人びとの暮らしをつなぐ企画事業の展開
	コスモス 地域の歴史や霞ヶ浦を生かした事業の展開

### 戦略C 広げる -展開力- 【戦略別広報】新しい広報

方策C-①	活動計画
新しい時代のニーズを取り込む 社会のニーズをとらえる	アピオス 学校・大学と戦略的に連携する
	みの〜れ 住民自ら企画を持ち込みチャレンジできるプレゼンテーション企画事業の展開
	コスモス 誰もがチャレンジできる企画事業の開催
方策C-②	活動計画
新しいチャレンジ	アピオス 専門分野を学ぶ「アピオスクール」の開校
	みの〜れ みの〜れで培ったノウハウを市内全体に展開する
	コスモス 地域資源を活かす全国の先進事例を学び実践する機会をつくる

### 戦略D 深める -文化醸成力- 【戦略別広報】文化を根付かせる広報

方策D-①	活動計画
自分らしさ、小美玉らしさを創る 社会的立場を気にしない 気軽な交流環境 高い文化性を醸成し昇華させる	アピオス 一人ひとりを活かし、小美玉らしさを生み出せるプロデューサーを育成する
	みの〜れ 対話と共創を通じて、感動を分かち合い個性を育む
	コスモス 地域の魅力を活かしシビックプライドを育む
方策D-②	活動計画
魅力的なコンテンツをつくる 作品・人材づくり	アピオス 制作力のあるホールになるため、積極的に舞台作品をつくる
	みの〜れ 蓄積してきたノウハウを生かした魅力あるコンテンツの充実
	コスモス アーティストや専門家のプロデュースによる住民参画企画

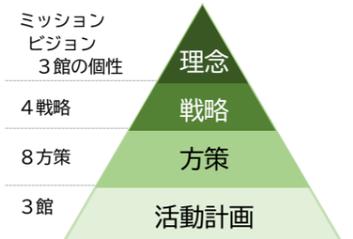
## 第2次小美玉市まるごと文化ホール計画（案）【概要版】

### 計画の概要

第2次小美玉市まるごと文化ホール計画（令和4年度～13年度）は、小川文化センターアピオス、四季文化館みの〜れ、生涯学習センターコスモスの3つのホールを拠点に、住民とともに歩む持続可能な豊かな文化のまちづくりを目指して策定するものです。「根を張ってこそ花が咲く」の理念のもと、第1次計画で育まれた特性を生かして、引き続き「住民一人ひとりが主役」となって力強く企画運営し、あらゆる関係者の支えで発展してゆく姿を構築できるよう、戦略・方策・活動計画を定めます。

### 1. 計画の全体構造

- ・理念 ミッション：ホールの役割・存在意義  
ビジョン：目標とする未来像
- ・戦略 理念を達成するための手法
- ・方策 戦略に基づく作戦・行動指針
- ・活動計画 3館別で方策を実行するためのプラン



### 理念

ミッション ホールが中長期で果たすべき役割（存在意義）

根を張ってこそ花が咲く -サードプレイスとしての魅力的なホール-

#### 根を張ってこそ花が咲く

- ・「根を張る」は基盤づくり、「花が咲く」は魅力づくり。
- ・第1次計画でのビジョンを、第2次計画でも継承。
- ・切り花のように出来合いの文化を生けかえるのではなく、根のある木花が毎年咲かせる、生きた美しい花のような文化に囲まれて暮らしたい。人の根を張れば、まちの幹が伸び、文化の花が咲く。

#### サードプレイスとしての魅力的なホール

- ・人びとが豊かな日常生活を送るためには、家庭・学校・職場のほかに、趣味趣向などで結ばれるもう一つの「場」：サードプレイス（居心地の良い場所）が必要。
- ・3つの文化ホール（アピオス・みの〜れ・コスモス）は住民の活動の場として定着しており、この活動をさらに展開することで、地域の結節点として、小美玉市の魅力を発信する場として役割を果たすことができる。

ビジョン 第2次計画が目指すホールの将来像・未来像

#### 1. 地域のきずなをホールが結ぶ（誰も取り残さない／QOLの向上）

- ・サードプレイスとしてのホールの存在価値を高めることで、地域のセーフティネットの1つとして機能し孤立を防ぐことができる。
- ・従来からホールに活動基盤がある住民を含め、より多くの人びとが交流し、日常生活の豊かさ・満足度（QOL：クオリティ・オブ・ライフ）を高めることができる。

#### 2. 小美玉の魅力をホールが発信する（市や地域のブランド力向上に役割を果たす）

- ・「住民主役・行政支援」の考え方のもと、ホールで企画・イベントを創出することで、担い手としての住民・職員の能力が高まり、より幅広く活動できるようになる。
- ・時代の変化をとらえ、新たな企画を創り出すチャレンジを続けることで、小美玉の認知度とブランド価値を高めることができる。

#### 3. 個性豊かな3つのホールが共創する

- ・3つのホールは、活動拠点とする住民によってそれぞれ個性が定着している。
- ・3つのホールの住民が相互に交流することで、それぞれのホールがもつ価値を明確にでき、ホールへの愛着を高めることができる。
- ・ホールの価値が明確になることで、3つのホールが相互に連携するだけでなく市内外を超えての文化連携ができ、より豊かな生活を送ることができる。

# ピラミッド・ツリー構造図

第1次まるごと文化ホール計画が育ててきた特性

- ①住民主体の文化活動を支える拠点づくり
- ②生活に関わる社会活動を育てる土壌づくり
- ③市職員のプロデュース・コーディネート力を育成する拠点づくり
- ④IT技術を活用しながら、アウトリーチ型の文化活動を進める拠点づくり



用語説明

・サードプレイス： 家庭や職場以外の、とびきり居心地のよい場所。目的別にマイプレイス型と交流型に大別でき、ホールは交流型：さまざまな人々が気軽に交流できることを目的に設計された場所に該当する。

・QOL(クオリティ・オブ・ライフ)： ひとりひとりの人生の内容の質や、社会的にみた生活の質のことを指し、ある人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見い出しているかを尺度としてとらえる概念。

・イノベーション： ものごとの新しい①機軸(方法)、②結合、③切り口、④捉え方、⑤活用法を創り出す行為。従来のもの・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを指す。

・シビックプライド： 地域への愛着に加え、「地域をより良い場所にするために自分自身が関わっている」「自分がこの地域の未来をつくっている」という当事者意識を伴う自負心のこと。